

## 「5年・ホコリの中の花粉(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

シジュウカラは一度に5~10個もの卵を産む。しかし、巣の半数はヘビに襲われ、巣立った雛も、猛禽類や小型獣の危険にさらされる。また、多くの昆虫は一度にたくさんの卵を産む。これも、無事に成虫まで育つのは、数%だろう。花粉も同じである。一つの花が造る花粉は膨大な数だが、そのうち無事に雌しべの柱頭に受粉されるのは、非常に少ないはずである。アサガオなどの自家受粉も可能な虫媒花粉なら、確率もある程度高いだろうが、スギやヒノキといった風媒花粉の場合、99.9%以上が「無駄玉」であろう。事実、地質時代の地層からは、多くの花粉が見つかり、過去の植生が推定できるという。現在でも、受粉に使われなかった花粉の多くは、地上に落ちているはずである。私は、子どもたちにこれを探させたいと思った。

花粉はどこにでも均等に分散して落下しているはずだが、それを探すには、ある程度のヒントが必要だ。ポイントとしては、以下のようなになる。

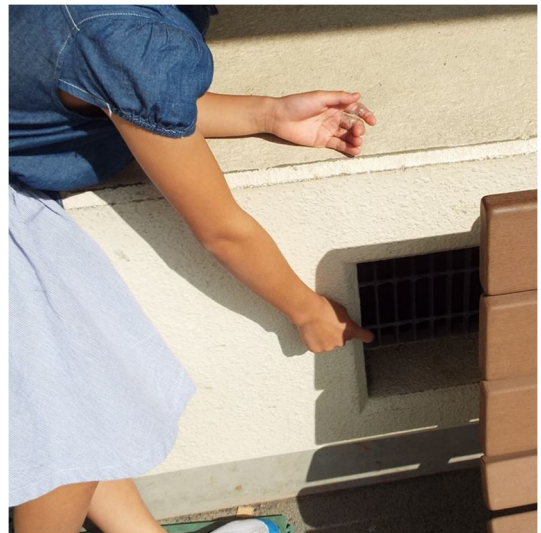
- ・屋外であること。屋内にも花粉は飛んで来るが、屋外よりもずっと少ない。
- ・雨が直接当たらない場所。雨は花粉の大部分を流し去ってしまう。
- ・ヒトが掃除をしたり、触ったりしない場所で、ホコリが積もっている場所。

これらの条件を満たす場所は、学校の敷地内でもそれほど多くはない。私は、子どもたちと、さっそく「ホコリ探し」に出かけた。



この活動の主要な目当ては、「条件に合った採取場所を推理して、実際にそこに花粉が存在するか確かめること」である。5年生の子どもにとっては、やや難しい研究課題である。しかし課題は難しいほど、子どもたちの探求心に火が付くものである。

子どもたちは、目の付け所が非常に良い。左下の写真は、軒下にある、低学年の校庭履きの下駄箱である。この上は「屋外」「雨が当たらない」「手が届かない」と「ホコリの3条件」が揃っている。



この写真の場所をもっと素晴らしい。地下室換気穴の金属柵のすき間である。相当に長期間のホコリが積もっているだろう。



ホコリは指紋のついていないセロテープで採取し、その場でスライドに貼り付け、そのまま検鏡する。果たしてホコリの中から花粉は見つかるだろうか?